

皆さま、こんにちは。

本日は猛暑の中、お越しいたごきまして誠に有難うございます。

2005年に始まったこの市民の手作りによる平和イベントもすでに19回目になり、今回のテーマは子ども達です。

日本が国連の「子どもの権利条約」を批准して30周年を迎えますが、人々の意識も少しずつそちらに向いてきたようです。

我々実行委員会でも先月、プレ企画として「子どもの権利って、なに？」というタイトルで勉強会を開きました。私立和光小学校の教員であり子どもの権利についてとても詳しい山下淳一郎先生をお招きして講義をお願いしました。子ども達との教育現場で実践に基づいた幾つかのケースも交え、とてもわかりやすくお話していただきました。そこで何が一番大事かと言うと、やはり先ず子どもたちの声をしっかり聞くこと。そしてそれにちゃんと向き合って応答することが重要なのだと学びました。優しいようで難しい。とかく、「忙しい」とか「時間がないから」など大人の都合を優先したり、また、「そんなのムリムリ」などと頭ごなしに否定したり、時には上から目線で、子ども達をないがしろしてきた部分はかなりあるのではないかと自らも反省しました。

今日のメインプログラムである合唱組曲「ぞうれっしゃがやってきた」は、まだ戦後の混乱の中、子どもたちの「ゾウが見たい」という熱い思いに大人達が向き合って生まれたストーリーです。

また、子どもたちの声に耳を傾ける、という姿勢は家庭や学校での大人と子どもの関係に限らず、子ども同士や大人同士、そして近所のお隣さんから始まり、地域同士、国や国同士とその領域はどんどん広がっていきます。相手を尊重し、お互いの声にしっかり耳を傾け、きちんと対話して生きていくことは人間が営む社会の中で最も基盤になることであり、それが世界の平和にも繋がっていくのではないのでしょうか。

先ずは、足元から。未来を担うのは子どもたちだからこそ、今までの接し方について振り返ってみたり、ちょっと範囲を広げて他の家族や職場での人間関係なども含め、こういう機会に考えてみるのも良いかもしれません。

これから舞台でのプログラムが始まりますが、ホワイエでも平和関連の様々な展示物が用意されております。毎年恒例の写真や絵画、絵手紙や川柳の他、今回のテーマに因んで、前述の山下先生による講演内容や狛江で活動されている「こまえ・こどもの権利を考える会」の活動紹介もしていただいております。休憩時間や舞台プログラムの終了後は閉館までじっくりとご覧になってください。もし都合でご覧になれない場合は、



若干内容が変わりますが、今月 19 日から 26 日まで西河原公民館 1 階ギャラリーに於いて、引き続き展示しておりますのでご利用ください。

それでは、短い時間ですが、最後まで、ごゆっくりお楽しみください。